

2024 年 11 月 13 日

後期第 2 回 全学実行委員会 議事要旨

文責：全学実行委員会事務局 局長 池田奏翔

【本文書について】

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称：

委員長(全学実行委員長)

副委員長 (全学副実行委員長)

事務局長(全学事務局長)

会計(全学会計)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

工(工学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

理(理学祭代表)

歯(歯学祭代表)

その他の略称：

各祭(北大祭を構成する上記の各種祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

【後期第 2 回全学実行委員会出席者】

- ・ 副委員長
- ・ 事務局長
- ・ 会計
- ・ 榆

- ・文
- ・獣医
- ・医
- ・農
- ・IFF
- ・薬
- ・歯
- ・理
- ・工

【議題】

1. 報告 2024 年度後期北海道大学大学祭全学実行委員会 新役員紹介
各祭英語名表記の決定
2. 第 67 回北大祭テーマの決定方法について
3. 実行委員会規則改正について
4. 全学分担金について
5. 連絡事項

【議事内容】

1. 報告

副委員長

定刻になりましたので、ただ今より 2024 年度後期第 2 回全学実行委員会を開催いたします。議事に先立ちまして、本日全学実行委員長の赤井が欠席のため、代理として全学副実行委員長の伊藤が議事進行を行わせていただきます。よろしくお願いします。

各祭総数の 3 分の 1 以上の出席があるため北海道大学大学祭全学実行委員会会議規則第一章第一条の規定により、本委員会は成立しました。本日の資料はレジュメと別紙の計二点です。

まず報告事項がございます。1 点目、2024 年度後期全学実行委員会の新役員を紹介いたします。赤井佑太が全学実行委員長、伊藤大然が全学副実行委員長、榆陵祭代表である蜂谷美結も同じく全学副実行委員長、土橋拓実が会計、池田奏翔が北大祭事務局長、獣医学祭代表の方が会計監査を務めます。改めましてよろしくお願いいたします。

2 点目、各祭英語名表記決定の報告です。別途資料をご覧ください。こちらは北大祭事務局留学生対応担当からの報告ですが、本日不在のため代読いたします。北大祭事務局総務部留学生対応担当の杉浦です。各祭の英語名表記が決定いたしましたので報告いたします。

2024 年度前期第 11 回全学実委において議題に挙げた各祭の英語名について、各祭代表の方々に祭後アンケートにて①英語名 (e.g. Humanities Festival) ②和名 (e.g. Bunkei Festival) ③和名 (e.g. Bunkeisai Festival) の 3 つから選ぶ形で選択していただきました。アンケートの結果は 2024 年 10 月 25 日現在、①6 票、②1 票、③0 票、未回答 3 票と、①が有効投票総数 10 票の過半数に達したため、お配りした資料に表記してあるものに決定します。今後、各祭の皆様が英語表記を使用する際はこの表記に従っていただきますようお願い申し上げます。本件についてご意見がある場合は、担当者不在のため資料に記載のリンクまたは QR コードから、11 月 15 日 23 時 59 分までに投稿ください。よろしくお願いします。

2. 第 67 回北大祭テーマの決定方法について

副委員長

続いて議事に移ります。1 点目、第 67 回北大祭テーマの決定方法についてです。第 67 回北大祭のテーマは例年に倣い、北大生を対象とした一般公募により決定したいと考えています。この決定方法では、テーマの確定時期は 1 月ごろとなります。しかし、事務局側から、実施企画に反映させるためにテーマの方向性を早期に知りたいとの要望がありました。第 66 回北大祭においても同様の手段を取り、企画立案や審査等において有効であったとの意見もありました。これらを踏まえ、テーマの方向性を決めるテーマ理念をあらかじめ設定し、それに基づいてテーマ案を募集し決定するという案に至りました。

今年度のテーマ理念案は、「多彩な北大祭」です。北大の特徴として、地域に根ざした大学であること、道内では数少ない総合大学であること、留学生や海外出身者、道外出身者が多く在籍し、多種多様な文化が入り混じっているということが挙げられます。第 67 回の北大祭では、これらのような北大ならではの強みを前面に押し出していきたいと考えています。例えば、道内地域と連携した企画や各学部ならではの特色を生かした企画を展開することで、それぞれの色を表現し、来場者の方々にそれらを感じていただける機会になればと思います。このテーマ理念案を作成いたしました。以上が、第 67 回北大祭のテーマ理念及びテーマ決定方法です。

本日の実委では、このテーマ理念及びテーマ決定方法についての採決をとります。数分時間を取りますので、再度ご一読ください。

それでは採決に移ります。第 67 回北大祭のテーマ理念及びテーマ決定方法について、棄権される各祭代表の方は挙手をお願いします。不承認とされる各祭代表の方は挙手をお願いします。承認される各祭代表の方は挙手をお願いします。棄権 0 票 不承認 0 票 承認 10 票で本案は承認されました。テーマ募集の詳細な日程につきましては、次回の実委でお知らせいたします。

3. 実行委員会規則改正について

副委員長

2 点目です。前回に引き続き、工学祭から提案のあった全学実行委員会規則改正案の審議を行います。工学祭からの提案は 2 点ありまして、各祭の参加に関する部分の改正と、全学分担金の規則への明記です。まずは各祭の参加に関する規則について審議を行います。工学祭の提案の要旨は、「各祭の定義づけを行うべきである。学部祭が分裂することで、実質的に実委が乗っ取られる事態を防ぎたい」ということでした。これに対し問題点としては、「何をもって公認を得たとするのかが不明瞭である。文系祭は公認が取れていない、かつ五年経っていない。一度中断した各祭は、次年度以降の開催が困難である」という点が挙げられました。では審議を始めます。工学祭の提案に対し、何か意見のある各祭代表の方はいらっしゃいますでしょうか。

IFF

前回も言ったとおり、この条件では IFF は存続ができなくなると思うので、案としてこちらが考えついたのは、どっちみち一つの各祭として成立するためには事務との連携が必要なので、「事務と連携をとることができると全学の委員長系が判断した」という要件に格下げというか、変更してもいただくか、もしくは継続要件と新規の要件の二つに分けて設けるというのがいいと思います。「新規に関してはこのように判断して、それが新規だと認めます。継続に関しては、三年間で一回でも各祭として認められていれば、第一回の実委に参加すれば参加が認められます。」というように、新規と継続の二つの要項に分けてやるのがいいのではないかと考えました。

副委員長

ほかに意見のある方はお願いします。

農

前回工学祭から規約改定の話を受けまして、農学祭の会議の方でも少し話しました。改定の目的が、北大祭開催の否定が行われたり、実際にこれ自身を取り消しになると困るということで、そこが渡辺さんの心配の出発点だったと思います。実際北大祭がなくなるというのは各祭にとっても問題になることだと思いますが、その上でそもそもこの改正が必要なのかということ自体が問題になるかなと思います。北大祭の開催を否定するような動きを止めさせるために実際に何が必要なのかというところを少し話し合った上で、規約改定が必要ならそういう話し合いに進んでいくべきなのかなと思います。その辺にどういう事情があるのか、どういうことが考えられそうなのかというのが、全くはっきりしないまま規約改定の論議になってしまっているの、その辺を今一度話し合った方がいいと思います。

文

前回の実委で文系祭が五年の要件から外れるという話をしました。規定を変更することは特に問題ないと思うんですけど、先程 IFF の方も言われていたように、新規の条件と、継続要件で分けていただけると文系祭としてもありがたいです。例えば、現行存在する各祭に関してはノータッチでいくとか、新規に関してはこういった条件でもいいけど、例えば五年をある程度引き下げて、若干緩和していただけるとありがたいかなと思います。

副委員長

ありがとうございます。他に意見のある各祭の方はいらっしゃいますか。榆陵祭お願いします。

榆

榆陵祭の方でこの工学祭の方から出していただいた議案をもとに話して、榆陵祭も含め公認を受けていない各祭が多くありますので、もともとの要件として設定していたものを判断基準のようなものに変えて、「実行委員長および副実行委員長により審査の下承認された場合、その祭を各祭の一つとして承認される」という規定に変更すれば、他の各祭の方も特例として認められ、各祭として存続できるのではないかなというふうに考えました。

副委員長

ここまでで何か他の意見がある各祭の方はいらっしゃいますか。

農

(北大祭開催の否定の動き・思想を) 心配されていると思うんですけど、実際どれぐらいありえそうなのでしょう。

工

二・三年前は本当に学祭を潰そうとする人がいたので、結構ありえるなと思っていたんですけど、今はその当時に比べたらだいぶいいのかなと思います。

農

この各祭以上の人数集めて反対するというような感じにはなっているのですか。

工

この実委という組織を知らないだけだと思いますが、そこまで行動に出しているところはないと思います。規約が外部に漏れているということはないと思いますが、もしこういう組織があるということを団体が知ったときに、どうなるかは正直読めません。

農

どういうところで北大祭をやめさせたいという反発がされているんですか。

工

北大祭というよりは、事務局に対する嫌がらせという部分が大きいと思います。この先それが縮小してくればいいですが、それが読めないというか、言い切れないところがあります。二年前に処罰規定を導入したときから団体側と揉めることも多かったので、実委も含めて事務局にヘイトが溜まってきているところがあると思います。どのくらい行動に移るかというのは正直読めない部分がありますが、その辺りも含めて、皆さんの判断がそこまでリスクではないだろうということであれば、僕の杞憂で済めばいいかなと思います。

農

前回問題意識というところで話してもらって、北大祭の継続に関しては意見が一致していると思いますけど、いきなり規約の改定の話をするのは、推測というか飛躍かなと思います。同時に実際そのような団体があるということは把握していますし、事務局が開催の中でいざこざが起きてしまうのは仕方がないことですし、SNS などを見ると向こう側もひどいなと思うので、その辺りが実際に肥大化してきたときにきちんと対応を取れるようにした方がいいかなと思います。それが曖昧な状態のまま進めていくと、将来問題になる可能性があるとしたら、今後の第だと思います。今後の人たちの余計に縛ることになりますし、具体的に問題が形にならないと、本当に何に対処すべきなのかがはっきりしないので、曖昧なまま進めてしまうのは難しいのではないかと思います。

工

工学祭としては、問題が起こる前にしめておきたいと思っています。

農

事務局を経験されているので、その辺を心配されているのも分かります。ただ、私は事務局内の様子を詳しく知らないなので、事務局と団体の関係とか、どれだけ実際に問題が起きうるのか、起きていたのかというところがわかりません。そうするとこちらも何に対処すべきなのか、実際にどう解決すべきなのかとうような議論を進められないので、その辺をぜひはっきりさせてほしいです。また、改定の必要があるのかというところも話し合いたいです。

工

各祭の皆さんで、リスクの有無を判断していただけたらいいかなと思います。おそらくそこはどうしても相反するところなので、まずは皆さんの判断でいいと思います。リスクは高

くないだろうということでしたら現行のままでも問題ないと思うので、問題が起きたときに議題が挙げられればいいという判断になれば、それで大丈夫です。

農

その辺の問題について、事務局内で引き継がれたり話し合われたりはしましたか。

副委員長

事務局としてこの問題を取り上げたということはありません。この全学実行委員会に関わる人の間で、このような問題の可能性があるのでないかいうのを提案いただいて、それに対する案を考えているという段階ですので、全体として問題になっているというわけはありません。

農

わかりました。

副委員長

他に何かご意見がある各祭はありますか。

理

北大祭の全学実行委員会は、今のところ 10 個の各祭でなんとか円滑にできているところはあると思いますが、北大祭を代表する人たちが一人ずつ集まった組織なので、いかにこの 10 人が多様性を担保できるかというのは大事だと思っています。工学祭の方が書いてくれたように、コース祭のようなものを作ったら過半数を超えるので、理論上潰すことはできるみたいなことはありえるかなとは思いますが、現実的に高くはないのかなという気も正直してしまいます。今の時点で潰したいと思っている団体がどういうことをしてくるかというのは分からない部分が多いなと思っていて、具体的に対処するための目的を決めようと、それ以外のリスクに対して対処しきれない部分があるなと思っています。現行の規約を見ると、全学実委に 1 回出席するだけで承認されてしまうというところは明らかに危ないのかなと思います。僕はなんとも考えずに北大祭に入ってきてしまいましたが、よくよく考えればこの文だけだと、出席するだけでどんどん増やすこともできるので、さすがにもう少し厳しくしたほうが良いのかなとは思いました。ただ、画一化して「5 年以上」などと書いてしまうと、IFF など一部の団体がうまいこと入りきれない部分があるのかなと思います。

一つあるとすれば、例えば「祭りは最大で 20 個まで」のように祭りの最大数を決めたり、「こんな感じだと公認されます」のように公認の方法をたくさん例示して、本当に何にも当てはまらないという場合だけ全学実行委員会を通したりというように、いろいろな承認のされ方を用意した上で、どうしても例外処理みたいになったときだけ全学実行委員長や副

実行委員長が判断するというような方向にしたほうがいいかなという感じはしました。

副委員長

ありがとうございます。今の意見を受けて何かご意見がある各祭の方はいらっしゃいますか。

工

各祭の方にお聞きしたいのですが、現行の案の、「出席したら認められる」ということに対してはどのような認識をお持ちなのかを確認したいです。理学祭さんは緩いのかなという認識だったと思いますが、他の各祭さんはどう思っているのかを確認したいです。

副委員長

では各祭に意見をうかがっていきます。榆陵祭は何かありますか。

榆

以前、事務局で問題があったということも考えますと、後期の第一回に出席すれば承認されてしまうというものでは緩いのかなと考えています。工学祭の方から上げていただいた議案については、やはり公認や要件が厳しすぎる面もあるのかなというふうに思いますので、基準という形にして、ある程度幅を利かせられるようなシステムにしてもいいのかなと考えます。

文

現状の第一回の実委に参加すれば各祭として認められる状況は緩いと思います。あくまで一例ですけども、例えば一つの棟を共有する文系祭が文学祭、法学祭、教育学祭、経済学祭の4つに分裂して、いざこざがあって結局当日全部できませんでしたみたいな状態になったときに、当日何も行わない各祭が好き勝手言って場を混乱させることができるという状況になるので、今よりも厳しめに何かしらの条件を設定するというのはありかなと思います。

獣

今までの人たちと同じで、第一回に出席すればオッケーというのは緩すぎるかなと思います。それだとどんな団体でも極論一回目さえ出ればいいということなので、もう少し厳しくしてもいいのかなと思います。ただ、要件を厳しくした結果現状ある各祭が漏れるというのは望ましくないなので、それこそ新しく作るときと要件を分けるなどして、何らかの方法で現状ある各祭が要件から漏れないようなやり方でやればいいのかなと思いました。

医

医学展です。特に追加の意見はないですが、要件を新規と継続で分ける IFF の提案が一番いいのかなと思いました。

農

まず当初の目的である北大祭開催の反対をどう止めるかという問題点から言うと、一回参加したら承認されるという問題とは直接は繋がらないのではないかと思います。それともう一つ、今回提起してもらったので改めて規則を読んでみて、各祭の義務ということで、「全学実委および北大祭の円滑な運営の協力する」というのは任務規定としてすでに書かれていて、「これに反する場合は実行委員長およびこの各祭の議決によってその処分を決定することができる」とすでに書かれているので、のっとられるという問題とは少し違うのではないかと思います。あるいは、参加しても何もしないということは、実際 9 条と 10 条で排除されているのではないかと思います。

IFF

我々の内部構造が複雑なので、あまり意見としてまとまっていないですが、僕が先ほど提案した内容が、IFF の存続にとってもほかの新しく来る人達にとっても良いのではないかと思います。

歯

歯学祭としても、一回だけ参加して認められるのは少し緩いと思いますが、歯学祭も一昨年開催していなかったりするので、やはり五年っていうのは少し厳しいかなと思います。新規と継続で分けたり、榆陵祭の方の案だったり、何かしら緩くして新しい条件を追加していただけたらなと思います。

理

理学祭としては先ほど言ったとおり緩いかなということと、今までの団体は継続するためにどうすればいいのかと、新しい団体の受け入れ方など、もう少し要件を洗練した方が良さかなと考えます。

薬

薬学祭としても後期第一回に出席すれば各祭として認められるというのは緩いと思いますが、コースがどんどん入ってくるみたいなことになれば、現実的にここに出席している各祭の方々でそれはないだろうという意見が出てくると思うので、ここで審議することで防げと思います。なので、工学祭の方が提案した内容は少し厳しすぎると思うので、もっと審議する必要があると思います。

工

それでは IFF の方から提案してもらった案に沿う形、つまり現行の各祭の方は運営能力があると判断して各祭として承認して、新しい各祭が出てくるときにはその都度審議をするという形がいいのかなと思いました。規則の第 8 条一項の、自動的に出ると認められるというところと、第 10 条の、違反があると判断したときは、実委を開催して処分を決定するというところをくっつけてしまえばいいのかなと思います。はじめの実委に新規で来ているところは審議をして、その場で認めるかどうかを決めるのがいいのかなと思いました。

副委員長

全体を通して何かご意見やご質問等ある各祭の方は挙手お願いします。

楡

楡陵祭です。新規のものと継続の二つに分けるという意見についてはいいと思いますが、その場合我々は今やっているからオッケーというふうになりますが、新しくできるお祭りとの差がものすごくできてしまい、不公平なのではと考えます。新しいものを締め切ってしまうという形になれば、それはあまりに閉鎖的なのではないかと考えます。だからといって案がよくないと言いたいわけではないです。ですから、差を縮められるように、不公平が目立たないようにする努力が必要なのかなというふうに考えます。

副委員長

今の意見を受けて何かご意見がある各祭の方はいらっしゃいますか。

議事を通して全学からも意見を上げさせていただくと、先ほどの農学祭から出た、「この問題が実際どれだけ起きているかが分からない状態でこの議論を進めていくのはよくわからない」という意見について、これから起きうることに対する対処であって、その可能性を潰すための改正をこれから行っていくということなので、問題が確定してないから改正をしないというのは理由にはならないのかなと思います。北大の名前を冠しているので、何かが起こってから対処しようというのは難しいのではないかと考えています。

何か最後にご意見はありますか。本日の議事については以上となります。今日出た意見をまた各祭内でまとめていただいて、これからも議事を続けていきたいと思いますので、よろしくお願いします。採決は次回以降といたしますので、よろしくお願いします。

4. 全学分担金について

副委員長

続いて全学分担金についてです。前回、工学祭から全学分担金の用途に関する質問を受けましたので、回答を会計の土橋さんお願いします。

会計

前回分担金の積み立ての使用予定について、ご質問というか、これから話し合っていこうというふうになったと思いますが、明文化されてはいませんが防災衛生の緊急時に当てるものとして現在積み立てております。他に追加の保険金の支払いにも使用するつもりで、今の段階では積み立てております。

副委員長

前回の全学分担金に関する議事等について何かご意見、ご質問のある各祭の方はいらっしゃいますか。

獣

先月送ってもらった実委議案 10 月 23 日版の 2.2 に改訂案は、内容的に第 66 回の内容を明文化したものだと思いますが、②の「屋外参加団体」というようにしてしまうと、獣医のように模擬店以外の屋外企画をやっているところがどうなるのかということを今年の獣医学祭でも結構話し合いました。参考に最後につけてくれた過去の実委の議事録の 8 ページ目で同じようなことをかつての獣医学祭の人が言っていると思います。全学分担金の使用用途は消毒や消化器がメインになると思いますが、獣医学祭はそれらを使ってないですし、保険も自分たちで入っているんで、屋外団体というくくりにすると、そういうところの扱いが微妙になるのではないかと思います。よって、模擬店以外で全学分担金を使っている団体があるかもしれませんが、模擬店からのみ徴収するようにしてもいいのかなと思いました。また、獣医学祭は実行委員会として組織した上で、団体としては一つでも企画ごとに担当者がいるという形なので、企画＝団体にならないという組織体系です。なので、企画ごとに分担金を出すべきなのか、団体として出すべきなのかがわかりにくく、第 66 回の会計の方にもいろいろ聞いていました。結果としては団体として出したので、3000 円しか出していませんが、わかりにくかったので、全学分担金の恩恵を受けられるのであれば、屋外の企画全部にした方が良くないかなと思いました。

会計

全学分担金は、防災衛生物品の消毒液や消化器、保険金などのために徴収しているので、確かに獣医学祭の方もおっしゃっている通り、そういうところから徴収するのは少し申し訳ないと思うところもあるので、これも明文化するべきなのではないかなと思いました。

副委員長

何か意見のある各祭の方いらっしゃいますでしょうか。

理

理学祭は屋外に区画がなく理学部の中で行うものですが、生物化学科生物学専修という団体が、企画のためではなく呼び込みやビラを配るために理学部の総合博物館の交差点あたりにテントを張りたいとのことで、区画がないのでどうしたらよいかを相談したところ、区画はないけれど許可するという事になって、全学分担金も徴収することになりました。ただ、屋外の団体をここで規則化してしまうと、生物科学科が企画やっているのは建物の中なので屋外にはならないと個人的には思います。これで屋外に一步でも出たり、屋外のエリアを少しでも使ったりした場合は屋外参加団体にするのかどうなのか、また屋外団体ではない生物科学科は、屋外の参加団体に恩恵が行くようにという目的にも、防災衛生面の強化にも全然繋がらない気がします。加えて、全学分担金という名前だと、北大全体で分担するような名前になっているような気がします。消毒液などを買うのであれば全学的に効果はあると思いますし、衛生・防災面は屋内にとっても大事な事なので、若干金額を下げることで他の団体からも徴収するようにして合計を担保できるようにしてもいいのかなという気はしました。

副委員長

今の意見を受けて何かご意見がある各祭代表の方はいらっしゃいますか。

IFF

規約の話とは離れてしまいましたが、全学分担金が何に使われているのかについて事務が不満に思っています。毎回こちらから聞いた際に「消化器などです」と言われて、ごまかされている気がするので、何の物品を全学分担金で買ったのかをリストのようにしてほしいと言われました。この場を借りてお伝えいたします。

副委員長

こちらでも会計と確認しつつ、発表できたらなと思いますので、よろしくお願いいたします。他に意見のある各祭代表の方はいらっしゃいますか。よろしくお願いいたします。

楡

先ほど、全学分担金という名称についての言及がありましたが、楡陵祭にも分担金がありまして、全学分担金という名前を区別のために使っているのかなと考えています。また、全学分担金の使用用途は消化器などであると会計の方もおっしゃっていましたが、「屋外参加団体」とすると、先ほどのように消化器使っていないですという団体も出てくるので、

「火器器具等使用団体」のように参加団体の定義を変えてしまえば、使っていないから払うのはどうなんだという問題は解決できるのかなというふうに考えます。

副委員長

今の意見を受けて何か意見がある各祭代表の方はいらっしゃいますか。採決等は次回以降といたします。これで議事は以上となります。

5. 連絡事項

副委員長

続いて連絡事項が二点ございます。1点目は、アンケート回答のお願いです。2つございまして、1つ目が各祭代表者の方の連絡先の調査、2つ目が全学実委開催曜日の希望調査です。これらは本日終了後に line グループに共有いたしますので、ご回答お願いいたします。なお期限は11月15日金曜日の20時といたします。開催曜日希望調査につきましては、期限を過ぎてご回答いただいた場合、ご希望を反映できない可能性がございます。また、本調査をもとに総合的に判断し決定いたしますのでご了承ください。2点目、次回実委の開催日程についてです。こちらは現在未定となっております。開催曜日確定後にご連絡いたしますのでお待ちください。今回の実委は以上となります。何かご意見ご質問はございますか。

工

今日の意見を踏まえて、工学祭内でどちらの案についても草案を作りますので、それについて次回またご意見いただいて、少しずつブラッシュアップできればいいかなと思います。それにつきまして、改案等がありましたら作っていただいて、議論できればと思うので、そういう形で次回以降進められたかなと思います。ありがとうございました。

副委員長

他にご意見ご質問等をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようですので、これをもちまして、2024年度後期第2回全学実行委員会を閉会いたします。ありがとうございました。